

**シンポジウム：養成施設における教育が育む介護福祉士の可能性**  
**～継続学習への意欲を醸成する授業の在り方について～**

木田 茂樹（淑徳大学短期大学部 健康福祉学科）

**1. 【介護の基本】授業紹介**

介護福祉士養成教育の中で用いられる多様な「言葉」たち。

中でも、「自立」、「尊厳」、「その人らしさ」、あるいは、認知症ケア、ユニットケアなどあらゆる場面で用いられる基本的用語としての「ケア」などは、あまりにも身近であり、かつ耳触りが良いが故に立ち止まって吟味されることなく、なんとなく「分かった」つもりで学習が完結されてしまいがちな言葉の代表例といえるのではないのでしょうか。

筆者は日常担当する授業の中で、これらの言葉の意味について学生たちと共に考えることのできる学習の場を創り出したいと願い、試行錯誤（四苦八苦？）しています。

本シンポジウムにおいては、上記のような試みの過程を模擬授業（マイクロティーチング）という形で紹介させていただきます。

テーマは「ケアとは？ ～自立と依存の関係性を問い直す～」です。

日本の文脈の中ではネガティブな側面から捉えられがちな「依存」という言葉の本来の意味を、多様な論者の知見を紹介しながら解き明かしていくような授業構成になっています。

学生たちの「探求心」を喚起し、「気づき」を促すことを目的に準備する種々の「しかけ」は、授業内容に応じて、文献からの引用であったり、施設見学であったり、あるいはゲストスピーカーの語りであったりします。

そのような多様な経験を通して学生たちが自ら導き出した「答え」の一部を共有させていただきたいと思います。

**2. 介護福祉士養成施設が有する最大の財産について**

本研修会の最大の目的は、公的に認められた資格取得ルートが複数存在する中で、学生たちが「費用」と「時間」を費やして養成施設に入学する「意味」はどこにあるのかといった我々の「存在意義」そのものを、多様な角度からあらためて探求することにあります。

どこの「誰」から何を学ぶのか。

学生たちの将来に大きな影響を与える「探求心」を育む学びの場を彼らと共に創り出すことができるのは、学び続ける姿勢をもった養成施設の教職員だけなのではないでしょうか。

本シンポジウムでの発表を通して、上記のような授業環境を提供できることが養成施設の「存在価値」であり、それを育むことのできる教職員こそが養成施設が有する最大の「財産」であると主張させていただきます。

日本介護福祉士養成施設協会  
令和5年度 全国教職員研修会  
シンポジウム



# 養成施設における教育が育む介護福祉士の可能性

～卒後の継続学習への意欲を醸成する授業の在り方について～



淑徳大学短期大学部  
木田 茂樹

# 次第

## ① 自己紹介

～世界を**見る**ということについて～

## ② 【介護の基本】 授業紹介

「**ケア**」とは？ ～**自立**と**依存**の関係性を問い直す～

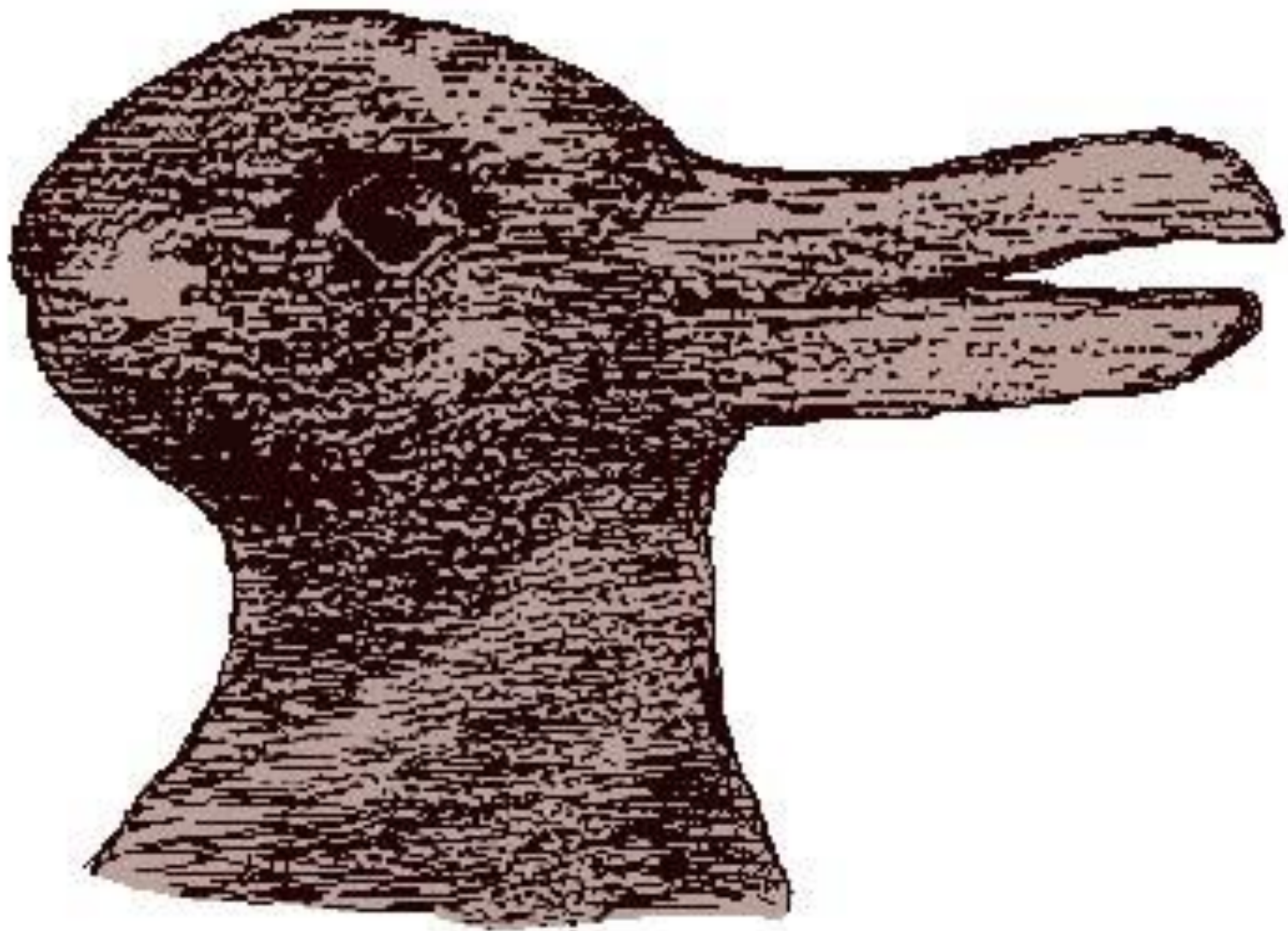
## ③ まとめとして

～介護福祉士養成施設が有する最大の**財産**とは～

①皆さんの目には  
何が見えていますか？

～世界を「見る」ということについて～





ジョセフ・ジャストロー (1900)

見えている世界は  
見ようとしている世界  
に過ぎない。

「どこ」で「誰」と過ごすのか



要介護者の人生の質に大きな影響を与える可能性がある。

「どこ」で「何」を学んだのかということは

学生たちが将来出会う要介護者のみならず、彼ら自身の未来像をも大きく左右する問題であるはず。

## ②【介護の基本】授業紹介

「ケア」とは？

～自立と依存の関係性を問い直す～





立ち止まって吟味されることなく学習が  
完結してしまう可能性がある多くの概念

尊厳？

ケア？

寄り添う？

その人らしさ？

自立？

## ケアの分類 広井良典（1997）

①狭義→「看護」・「介護」

②中義→「世話」

③広義→「配慮」・「関心」・「気遣い」

僕らは誰かにずっぽり頼っているとき、**依存**している時には、「本当の自己（ぼーっとしていて無防備な自分）」でいられて、それができなくなると「偽りの自己」をつくり出す ～中略～  
逆に言うならば、「**いる**」ためには、その場に慣れ、そこにいる人たちに安心して身を委ねられないといけない。（東畑2019 一部木田が加筆）

依存はいけないこと??

自立の反対語は依存??

世の中のほとんどのものが健常者向けにデザインされていて、その便利さに依存していることを忘れている。

実は膨大なものに依存しているのに、「私は何にも依存していない」と感じられる状態こそが、“自立”といわれる状態なのだろうと思います。

だから自立を目指すなら、むしろ依存先を増やさないといけない。

(熊谷晋一郎)

## ケアの定義（上野によるデイリーの引用）

【依存的な存在である成人または子どもの身体的かつ情緒的な要求を、それが担われ、遂行される規範的・経済的・社会的枠組みのもとにおいて、満たすことに関わる行為と関係】（上野2011）

⇒ ケアは相互行為であり、社会的関係である。

依存は大前提！！

ケアという行為の双方向性

例えば誰でも、自分が好きな人、あるいは大切と思う人に対しては時間をさくのをおこなわない一方、そうでない相手に対しては時間を過ごすのを極力減らそうとする。

こうしたことから考えると、ケアとはその相手に「時間をあげる」こと、と言ってもよいような面をもっている。あるいは、**時間とともに過ごす**、ということ自体がひとつのケアである。（広井良典1997）



ケアがケアでありうるのは、なんらかの目的や効果を勘定に入れない、つまりは意味を介しないで条件なしで「**ともにいる**」ことのなかである。（鷺田清一1999）

# 僕の教え子たちは自立をこのように定義しました♪

- 生活において「自分で自分のことができる」ことだけでなく、依存していても「自分の生活を自分で決める」ことをいう。
- 周りの協力・支えの中で、自分らしい生活を送ること。
- 多様であり、周りの人々と手を取り合って生きていくこと。
- できる事は自分で、できない事は他者に助けてもらいながら生活すること。
- たとえ誰かに頼っていたとしても、自分の意志で決定し、自分らしく生きることができる事。
- 自分の傷や課題を認めて、その上でどう生きていくか答えを出せること。

「介護の基本」授業内演習より

そう、依存することは恥ずかしいことではなかったんですね！！

なぜなら・・・

ケアは

「互いに依存し合える環境」  
にこそ生じるものなのだから

しかし・・・

自立を良しとする社会では、依存していることそのものが見えにくくなってしまうから、依存を満たす仕事の価値が低く見積もられてしまう。（東畑 2019）

阿部（2019）は「介護職の働きのいい」について問うた自身の著書の中で上野（2011）の考察を引用した上で、

「職業としての介護は、ニーズを持った他者とその時・その場を共有しながらコミュニケーション行為を中心にしてサービスを提供する職業であり、同時性、消滅性、移送不能性、在庫不能性、労働集約性を伴っているが故に、そのすべての行為を貨幣価値に換算するのが難しい」

と述べている。

つまり・・・

他者の「依存」を引き受けることによって、その人の人生の継続を支えることを生業とするケアワーカーたちの「依存」が軽視されがち！！！！

ケアしつづけるために、ケアする人は多くのものに支えられることを必要とする（東畑 2019）

では、どうすれば我々介護職の**存在価値**を  
社会に向けて証明することが出来るのか？

といった新しい「**問い**」が生成され

その問いを探究するための「**好奇心**」や「**探求心**」が育まれる。



これは**研究的視点**そのもの。

このような「**探求心**」を持つことこそが我々対人援助職にとって最も大切な資質なのではないでしょうか。

③まとめとして  
～介護福祉士養成施設が有する最大の財産とは～





「教育」とは、自分の持っているものを  
伝えるということ。（黒澤貞夫2016）

どこで何を学んだのかということ



どこの「誰」から何を学んだのかということ



学生たちの未来を大きく左右する。



専門介護福祉士（仮）資格取得のための高度な学習  
を支える研究的視点の獲得。



それぞれのフィールドでリーダーシップを発揮して、  
多職種協働を実現する原動力に！！

介護福祉士養成施設の財産は・・・

各養成校に所属する教職員の存在そのもの

我々教職員個々が有する知識・経験・・・そこから育まれる人間性こそが学生たちが目指す援助職者としての憧れのモデルとなる。

そのような存在であるためにも、学生たちと共に学び続ける姿勢を持つことが求められる。

# 参考・引用文献

- 阿部正昭（2019）『介護職の働きがいと職場の組織マネジメント 特別養護老人ホームにおける介護現場の視点から』ブイツーソリューション
- 上野千鶴子（2011）『ケアの社会学 当事者主権の福祉社会へ』太田出版
- 黒澤貞夫（2016）『介護は人間修行 一生かける価値ある仕事』日本医療企画
- 東京都人権啓発センターHP「自立は、依存先を増やすこと 希望は、絶望を分かち合うこと（熊谷晋一郎インタビュー）」<https://www.tokyo-jinken.or.jp/site/tokyojinken/tj-56-interview.html> 2023/7/15
- 東畑開人（2019）『居るのはつらいよ ケアとセラピーについての覚書』医学書院
- 広井良典（1997）『ケアを問い直す-＜深層の時間＞と高齢化社会』ちくま新書
- 鷺田清一（1999）『「聴く」ことのカ-臨床哲学試論』TBSブリタニカ